

四本塚（しほんいり）

秦野 秀明

はじめに

越谷市内大沢地区に存在する「内野塚樋」は、通称「四本塚」と呼ばれる。

「末田・須賀溜井」より塚樋によって引水される須賀用水⁽¹⁾が、「松伏溜井」より直接引水される葛西（鷲後）用水（逆川）を、「伏せ越し」で通過する塚樋である。本稿では、「内野塚樋（四本塚）」の詳細、来歴、水害記録について、述べることにする。

一 「内野塚樋（四本塚）」の詳細

明治二十年『大沢町地誌』には、「内野塚樋（四本塚）」について、次のような記載がある。

「史料一」

内野塚樋

所在 葛西溜井ノ底ニ埋ム

長 拾八間 幅 横八尺 高四尺

構造 木製 架設年月 慶応三年式月

雑項 須賀堀ノ水本樋ニ至リ葛西溜井ノ底ヲ通過シ、

曲状ヲナシ増林村地内字古川ニ入ル⁽²⁾

（太字・傍線筆者）

文政五年（一八二二）までに、福井猷貞が著した『大沢猫の爪』には、「内野塚樋（四本塚）」と推定される「内野」の「悪水塚」について、次のような記載がある。

「史料二」

内野

一 悪水塚 長 十八間

横 二間 高 四尺五寸⁽³⁾

（太字・傍線筆者）

二 「内野塚樋（四本塚）」の来歴

天保十一年（一八四〇）に、江澤昭融が著した『大沢町古馬笥』には、「内野塚樋（四本塚）」について、次のような記載がある。

「史料三」

百十 ○四本塚与云事

一 内野耕地須賀用水路の末ニ伏有之候四本塚与ハ、戸前四本有故ニかく云なり、伏越竜塚といふが本名也、天保十亥年ヨリ模様替ニて戸前三本与なる。元禄五年申ノ二月初て御普請被仰付候由、同年之古書物ニ申ノ春内野新塚前後新堀両土手上ヶ場潰地帳与いふあり、森下耕地、内野、飯御免なぞ潰地の改あり、新堀与あるハ須賀堀の事也、同年ニ今の須賀堀も堀割有之事也、しかし須賀用水の事ハ其已前ヨリ水引たる事旧記ニ見へたれハ外ニ堀筋有之候事成べし、模様替ニて今の所に堀替たるもので見へたり、元禄五申二月より永引与なる、御奉行栗田六太夫殿・石田権野右衛門殿に書上申候事ハ記録ニ有之候、

愚考曰万治四年丑三月七日ニ取置候証文面ニ、須賀堀竣之文言あり、然れハ元禄已前ヨリ之事ハ分明らかたりといへとも、此時分ハ至而細キ堀ニて有之しを、元禄之度改而の御普請ありしと見えたり、其已前ハ今言いふ壺本塚之処なりと、夫故此所を元塚といふ、(4)

(太字・カタカナ・傍線筆者)

「史料三」の記載により、「四本塚」の名称は、「戸前」に「四本」有る(5)故に「四本塚」と名付けられたことや、「四本塚」の普請は、元禄五年(一六九二)二月に、須賀用水の流路変更に伴い行われたことなどが判明する。

また、江澤昭融の推定ながら、「四本塚」の普請が行われる以前の万治四年(一六六一)三月七日以前には、既に須賀用水は細流として存在し、その当時の須賀用水の塚樋が存在した場所は、「壺本塚」(6)であったことなどが判明する。

三 「内野塚樋(四本塚)」の水害記録

安政六年(一八五九)八月三日と十日には、「内野塚樋(四本塚)」の北北東・約百mに存在した「観音坊堤」が二度に亘って決壊したことが、旧大沢町S家の「記録帳」に記載(7)されている。

また、昭和二十二年(一九四七)九月のカスリーン〔Kathleen〕台風により、大沢地区の大部分は浸水被害にあったが、その被害をもたらした決壊地点の一つとして伝承(8)されてきたのが、他ならぬ「内野塚樋(四本塚)」であった。

むすびにかえて

安政六年(一八五九)八月三日と十日の水害、昭和二十二年(一九四七)九月のカスリーン〔Kathleen〕台風による水害の記録により、大沢地区の「内野塚樋(四本塚)」付近は、防災上注意すべき地点であることが推定される。

(1) 新井信男『中川水系 Ⅲ人文』、埼玉県、一九九三、四三五頁。

須賀堀用悪水路(延長約四八〇〇間、排水面積約七〇〇町歩)……川通村大字新方須賀から始まって同村大字大森、大袋村大字三野宮の宅地添を経て、大袋村大字大道の耕地を両断し、同村大字大竹、恩間及び桜井村大字上間久里、下間久里、大里ならびに大袋村大字大林と順次宅地添を流れ同村大字大房及び大沢町の耕地を過ぎ、逆川を内野樋管で伏越し地区外増林村大字花田地先で千間堀に合流している。

(漢数字・傍線筆者)

(2) 『越谷市史』第六卷 史料四、一九七五、九一頁。

(3) 福井猷貞『大沢猫の爪』『越谷市史』第四卷 史料二、一九七二、八七頁。

(4) 江沢昭融『大沢町古馬笥』『越谷市史』第四卷 史料二、一九七二、一六三・一六四頁。

(5) 「史料三」(江沢、前掲書注(4)、一六三頁)の記載では、「戸前四本道故ニかく云なり」と記載されているが、原文のコピーを解読した加藤幸一氏により、「道」ではなく「有」であることが判明した。

尚、筆者は「史料三」の「戸前四本有故ニかく云なり」の記載について、「戸前四本(の水路が)有故ニかく云なり」と推定した。

(6) 江沢、前掲書注(4)、一六四頁

百十一 ○老本塚之事

一 鷲後塚之事也、戸前老本故老本塚といふ、正徳元年ヨリ御普請ニて御伏込といふ、享保年中川俣賃金割合出入書物之内、葛西堀通ニて三尺の塚樋ヨリ用水引候杯と申文言有之候、尤四本塚之元塚ハ此老本塚之場所といふ、享保十四亥年迄ハ右老本塚ヨリ葛西用水を引、大沢・大房・大林・大里・間久り村杯も右塚ヨリ用水表向引候由、然ル処大沢町ハ高役御免之由申立、入用向一切不差出候間出入ニ相成、組合相外申候といふ、其訳ハ中嶋用水之部ニ書記ス、

但古手鏡ニハ用水内野塚与有之、正徳五未年御伏込与あり今云内野底塚与記之候、

(カタカナ・傍線筆者)

福井、前掲書(3)、八八頁。

老本塚

一 悪水塚 長 六間

横高 三尺

(太字・傍線筆者)

(7) 『越谷市史』第一卷 通史上、一九七五、一〇八四・一〇八五頁。

(8) 『古志賀谷』第一六号、二〇一一、六頁。

大沢地区の鷲後にお住まいのS氏によると、「内野塚樋(四本塚)」より下流に存在する通称「大曲(七曲)」においては、堤防が決壊した可能性が高いが、

「内野塚樋(四本塚)」においては、田畑等の低い土地の水を排水する目的で、堤防を切ったことを確認している。
 また、大沢地区の鷺後では、「壺本塚」の事を「いっぽういり」、「四本塚」の事を「しほういり」と呼んでいたという事である。



作成者：秦野秀明

写真 1

「国土画像情報(カラー空中写真) 国土交通省」
 整理番号 CKT-74-15
 撮影年度 昭和 49 年度(1975 年(昭和 50 年)1 月 3 日)
 撮影コース C9B 写真番号 19
 に加筆して転載

※ 一九八〇年代前半まで存在した「観音坊池」の位置を、一九八〇年代前半以降に建設された「都市計画道路北越谷駅東口線」の「南側」に描写する資料を散見するが、右の「写真 1」から判るように、「観音坊池」の位置は、「壺本塚」のほぼ正面で且つ、「都市計画道路北越谷駅東口線」の「北側」に存在していた。